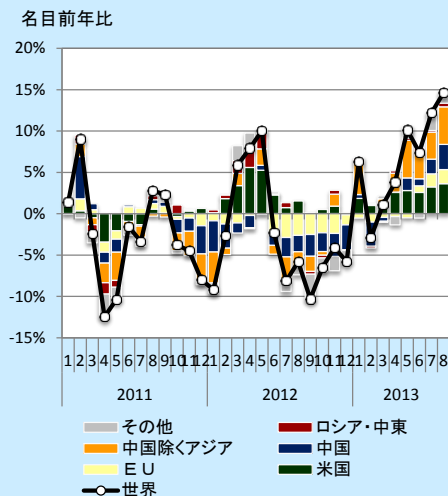


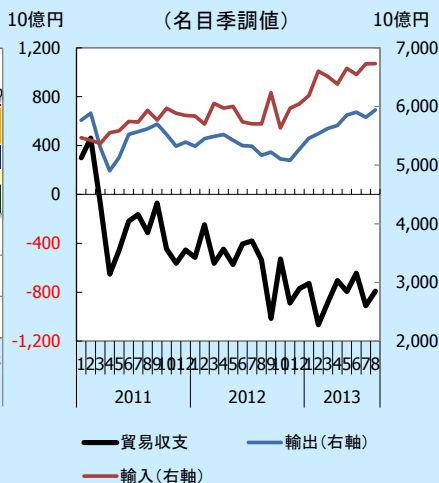
日本：貿易統計（2013年8月）

MRI Daily Economic Points
September 19, 2013

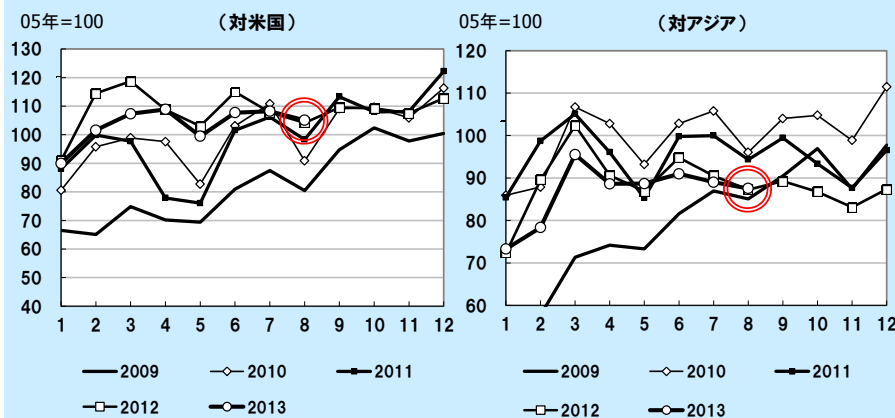
地域別輸出



輸出入と収支



地域別輸出数量指数



資料:財務省

評価ポイント

今回の結果

- 8月の貿易統計は、輸出が前年比+14.7%と6ヶ月連続で増加、輸入も同+16.0%と10ヶ月連続で増加した。貿易収支は▲9,603億円(同+25.0%)の赤字となった。
- 輸出額の増加は、円安による価格面の影響が大きい(輸出価格指数は前年比+12.5%)が、数量指数も同+1.9%と2ヶ月連続の増加。
- 輸出額を品目別にみると、有機化合物(前年比+62.7%)、鉱物性燃料(同+42.9%)、非鉄金属(同+21.3%)、自動車(同+21.0%)、半導体等電子部品(同+13.2%)、鉄鋼(同+12.2%)が伸びた一方、金属加工機械(同▲21.1%)、建設用・鉱山用機械(同▲11.4%)の減少が続く。
- 輸出額を国別にみると、米国向け(前年比+20.6%)とアジア向け(同+13.5%)は堅調に推移、中国向け(同+15.8%)も5ヶ月連続で増加。EU向け(同+18.0%)も3ヶ月連続で増加。ただし、数量ベースでは、米国向け(同+0.9%)とアジア向け(同+0.4%)が増加した一方で、EU向けは同▲1.2%の減少となった。
- 日銀の実質輸出入によると、8月の輸出は前月比+6.4%と2ヶ月振りの増加、輸入は同+1.3%と2ヶ月振りの増加となった。

基調判断と今後の流れ

- 8月の輸出は、前年比大幅増となった。昨年の裏もあるが、輸出数量指数は2ヶ月連続で増加し、日銀の実質輸出入の前月比でも増加となるなど、基調として、輸出の回復が続いている。
- 先行きは、アジアをはじめとする新興国の減速が懸念材料ではあるものの、米国向けの緩やかな回復、欧州向けの底打ちに加え、円安がラグを伴いつつも下支え要因となるため、輸出の回復は続くとみられる。
- 貿易収支は、円安による輸入金額増加により、当面、赤字基調を続けるとみられるが、今後は輸出の緩やかな回復から、一段の赤字幅拡大は回避する見通し。